

第 19 回富士山世界文化遺産協議会作業部会議事録

日時：令和 2 年 11 月 16 日（月）15：00～16：30

開催方法：W e b 会議

1. 開会

文化局局長 紅野局長より開会挨拶。

2. 報告事項

(1) 今夏の富士山の状況（閉山）と来夏に向けた取組について

事務局：資料 1 を説明。

意見・質問なし。

(2) 利用者負担専門委員会における協議状況について

事務局：資料 2 を説明。

意見・質問なし。

(3) 「富士山登山鉄道構想」に係る中間提言について

事務局：資料 3 を説明。

流石委員：登山鉄道について、秋に入り遺産影響評価について国当局に質問状を提出したと聞いているが、質問状の概要が知りたい

事務局：質問状については静岡県では把握していない。

流石委員：学術委員会の遠山委員長が登山鉄道について山梨県だけの富士山ではないという発言があったが、詳細を知りたい。また、国に対して登山鉄道がどのような影響があるかなどといった質問状を提出したと新聞で見たが、その概要が分かれば知りたい。

事務局：昨年度の 2 月の学術委員会の場で遠山委員長から富士山は山梨県だけのものではないという発言があったのは事実。しかし、その発言をなにかしらの文書で提出するということはしていない。また、登山鉄道について国の機関に対し質問状を提出したというようなことは把握していない。

流石委員：1～2ヶ月前くらいに新聞で見た。

山梨県：登山鉄道について国の機関に対し質問状を提出したというようなことは山梨県でも把握していない。

事務局：1ヶ月ほど前の報道は、今ご説明した中間提言については報道された。学術委員会としてこういう事に気をつけて検討してくださいという提言をまとめたという報道がされた。その記事のことではないか。

流石委員：はい、分かりました。

静岡県、山梨県両県の富士山として登山鉄道について何か話し合いの場が必要だと思うが、そういった意思是両県にあるのか。

事務局 : 今まさにその話し合いを行っているところであり、枠組みとしては遺産協議会の下に作業部会・学術委員会がありそこで文化庁にもオブザーバーに入っただき話し合いをしている、今後もしていくことになる。

流石委員 : 富士山は雪崩が多く、大きな問題となるがそこについては検討しているのか。

山梨県 : 雪崩については我々も一番大きな問題として認識している。雪崩に関しては鉄道の有無に関わらず、今、現在も運行支障をきたす大きな問題として捉えている。県では雪崩対策を今からどうするか改めて現地調査を含めて色々検討しているところである。鉄道構想に関わらず富士山にいらっしゃる方々の安全をどうしたら確保できるかと言う観点で検討を進めているところ。

流石委員 : はい、分かりました。今後も雪崩は大きな問題としてよく検討していただいたい。

3. 議事

(1) 世界文化遺産富士山遺産影響評価マニュアル(素案)について

事務局 : 資料4、4-2、4-3を説明。

意見・質問なし

3. 議事

(2) 富士山須走口五合目における園地事業の遺産影響評価について

事務局 : 資料5を説明。

流石委員 : 須走口5合目の園地事業のおおよその総予算額、何年かかって完成するのか。

事務局 : 資料5の別紙5頁を参照。

2021年着工、2021年12月頃竣工予定。

環境省 : 事業費については来年の予算になり、これから予算要求をする段階のためお答えしかねる。

(3) 経過観察指標に係る年次報告について

事務局 : 資料6を説明。

意見・質問なし

4. 閉会

以上